



2022年5月13日

各 位

株 式 会 社 R V H  
代表取締役社長 和田 佑一  
(東証スタンダード・コード6786)  
問合せ先 IR・広報室  
電話 (03-6277-8031)

## 通期連結業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

本日「2022年3月期決算短信〔日本基準〕(連結)」にて公表いたしました2022年3月期連結業績につきまして、前期実績値(2021年3月期)との差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

なお、当社は2022年3月期に係る連結業績予想を公表していないため、増減につきましては前期実績値との比較となっております。

### 1. 2021年3月期通期連結業績と前期実績値の差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益 (注)
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前期(2021年3月期) 実績(A)	1,474	△177	△100	△5,449	△281.92
当期(2022年3月期) 実績(B)	1,225	△144	△108	△119	△6.06
増減額(B-A)	△248	32	△8	5,329	—
増減率(%)	△16.9	—	—	—	—

### 2. 差異が生じた理由

売上高については、システム開発セグメントが堅調に推移し、前期実績と比較して増収となった一方、前期においてWEBサービスセグメントに属する全子会社を第三者へ譲渡したため、当社グループ連結業績としては前期実績を下回る結果となりました。

営業利益については、当連結会計年度より美容関連部門として開始したアイラッシュサロンの運営に伴う先行投資を行った一方、システム開発セグメントの各部門が大幅増益で推移したため、当社グループ連結業績としては前期実績を上回る結果となりました。

経常利益については、上記の増益要因があったものの、前期実績と比較して主に受取利息等が減少したため、前期実績を下回る結果となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益については、前期においては子会社株式の譲渡に係る特別損失等が計上された一方で、当期においては特殊要因による特別損失等の発生がなかったこと及びそれに伴い前期と比較して法人税等が大幅に縮小したことにより、前期実績から大きく改善する結果となりました。

以 上